

2026年3月期 通期決算説明会 主な質疑応答

日時：2026年5月14日（木） 17時30分～18時30分

Q：中東情勢による原油価格高騰や、その他メモリなどの材料費高騰の影響はどの程度計画に織り込んでいるのか

A：メモリなどの材料の高騰影響については計画に織り込んでいる。原油価格の高騰については、7月末まで現状の影響が続くという想定で織り込んでいる。

Q：時計事業は、中計で目標値売上高 2,070 億円、営業利益率が 15.7%であり、営業利益率の上昇幅が緩やかだが、背景は

A：原材料高騰など不確定要因があるため 3 年間の計画を見通すのは難しく、やや控えめに見えるかもしれないが、一旦ミニマムラインで設定した。当然、これより上振れを狙っていきたいと考えている。

Q：時計事業は、中計のなかで、G-SHOCK、CASIO WATCH 両方を伸ばすとのことだが、3年後の売上の商品構成は今後も変わらない想定か

A：時計事業は引き続き 2 軸戦略による事業拡大を推進していきたい。G-SHOCK、CASIOWATCH 共に利益率は高く、両者を伸ばしていくことで利益額の最大化を図っていく。

Q：サウンド事業は前中計でも収益改善が必要な事業だったが、今期は赤字縮小、最終年度には黒字化を計画している。今回計画を達成できるとした背景は

A：まず、不採算エリアの改革、人員体制の見直し等、構造改革による収益構造の立て直しを実施する。同時に、差別化された新製品の投入による売上拡大や、今まで進めてきたラインアップの高付加価値化などにより、収益性改善を進め、計画達成を図る。

Q：キャピタルアロケーション方針において戦略投資枠として 300 億円が設定されているが、どのような使用を想定しているのか

A：戦略投資の対象分野は主にコア事業である時計と教育、そして新規事業。コア事業の再成長、新規・潜在成長領域の拡大への投資を想定している。

Q：中期経営計画で29年3月期の新規事業は、こういったものを想定しているか

A：現時点ではAI ペットモフリンや、その他今後発表を予定している新規事業の売上がその他の項目に入っているが、3年後には新規事業として独立させ、100億円規模の売上計画と黒字化を目指している。